

賢治センター発足へ

岩手大学 地域にも参加呼びかけ

岩手大学(平山健一学長)は、宮沢賢治センター(代表・望月善次教育学部教授)を来月1日に発足させる。同大学の前身の盛岡高等農林学校は賢治の母校だが、賢治に関する研究はこれまで個々の研究者らにゆだねられ、大学として情報を集約し発信する場がなかった。センターは賢治に関心を持つ地域の人にも広く参加を呼び掛け定例研究会などを主催。賢治と岩手大学とのかかわりについて広くアピールしていく。8月には第1回全国宮沢賢治学生大会の開催も予定している。

同センターは学長裁「同大農学部付属農業教養農林学校本館」に隣接設置する。教職員に限定のNPO的な組織。育資料館(旧盛岡高等)する「百年記念館」にらず学生、卒業生、賢

治に関心を寄せる地域の人にも広く参加を呼び掛け、賢治と同大にかかわる研究や情報を集約、発信する場とする。当面、会費は徴収しない。

月1回程度の定例研究会を百年記念館で開

催するほか同大ミュージアムの解説ボランティアを対象にした講習会や短歌会といった自主事業を企画。8月28、29の両日には、同大を主催する第1回全国宮沢賢治学生大会(同実行委員会主催)を開き、学生サイドからも賢治について発信していく計画だ。

学生大会では賢治研究に携わる全国の学生や研究者を招いての研究発表会、講演会、パネルディスカッションなどを予定している。

稲垣大助さん(28)は「かつて、岩手大学の地で学んだ賢治について、学生の手で理解を深め、考えていこう」という大会。学部横断的な形で、広い視野に立つて賢治を見ていく場を作りたい。学生間のコミュニケーションや地域とのつながりを深める、懸け橋のような大会にしたい」と意欲を燃やす。同大4学部を軸とする実行委員会の学生を中心に実行委員会を組織し準備を進めている。

宮沢賢治は1915年に盛岡高等農林学校同大生センターで、国際日本文化研究センター(電話62116852)。

193月に農林学校を卒業した後も研究生として1920年まで籍を置いた。農業の研究の一方、同人誌を発行するなど文学的な素養にも磨きをかけた。望月教授は「全学の賢治に対する関心が集約され積み重ねられることになる。全国に向けた強力な発信も可能になる」とセンター設置の意義を説く。6月1日は同大の開学記念日。百年記念館前でセンターの看板上掲式が開かれるほか、同大生センターで、

「名譽教授の山折哲雄氏が「宮沢賢治と芥藤宗次郎―雨ニモマケズ物語」と題して講演する。宮沢賢治センターの日常的な連絡場所は、学内の地域連絡推進センター(電話62116852)。